



年頭のごあいさつ

北海道林産技術普及協会
会長 高橋 二郎

昭和64年の新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、ご家族ともどもご健勝にて新春を迎えられましたことと、心からお喜び申し上げますとともに、一層のご繁栄をご祈念申し上げます次第です。日頃、皆様には、当協会の業務運営に深いご理解と多大のご支援をいただき、まことに感謝に堪えません。当協会は、北海道立林産試験場と一体となって、木材加工技術の向上と普及に努め、林産工業の振興に寄与することを目的としておりますが、その試験場が新装2年目を機会に、時代の変化、潮流に合わせて機構を改革され、従来にも増して企業の要望に即応する試験研究と指導態勢をとられ、更に、開かれた試験場として多くの道民に木に対する理解と緑の大切さについてご指導いただいていることは、協会の事業推進に当たり心強い限りです。ここに、試験場の皆様に敬意を表し、感謝のお礼を申し上げる次第です。

さて、一昨年来の好景気持続で、心配されていた住宅着工数も昨年は全国的には160万戸台、道内も僅かの減で8万戸といわれています。業界も2年続きの景気で一息ついたといえますが、その間に、円高ドル安の進行で世界の垣根がはずされ、多くの国々より木材・木製品の大量輸入となり、道産材依存できた業界は新たな難問をかかえ込むことになりましたが、今後、更にその度合を強める状況にあります。

今後、業界としましては、これらを踏まえて木材の欠点改善等の強化、品質性能の安定化、使いやすしい部材化などを推進することに加えて、生産コストの大幅削減を図り、輸入ものより一味すぐれた製品を開発することによって活路を開き、対処していかなければならないと思います。幸いに、人々のライフスタイルも、安らぎと潤いを求めて木の持つ特質が再認識されてきております。このようなニーズにこたえ、安心して使っていただける製品の供給によって、国産材の需要拡大を進めていきたいと、試験場の絶大なご支援のもとで、協会も技術開発の推進と普及に一層の努力をしまいたる考えでございます。

昨年度は皆様のご協力をいただき、多くの受託事業や開発普及事業を着実にまいりまして、林産技術の普及についていささか貢献してまいりました。

新年度におきましても、前年度事業の継承に加えまして、国や道のご助成やご指導のもとに、地域材流通加工システム高度化事業を実施し、また、モデル木造施設建設促進事業として試験場構内に道産木製品展示館がすでに着工され、今春オープンの運びになっております。当協会は林産技術の普及啓蒙を図るため、この展示館の有効活用と円滑な運営に参加するとともに、この館の運営管理を道の助成を受けて実施する計画となっておりますので、試験場の新技術や新製品に加え、当会員の開発した優れた木製品を展示し、木材需要拡大の拠点施設として積極的に活用していきたいと存じます。

その他2件の受託事業を計画実施し、継続事業を含めます業務が拡大されますので、皆様の特段のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。新春のご挨拶といたします。